2014 年（平成 26 年）3 月作成

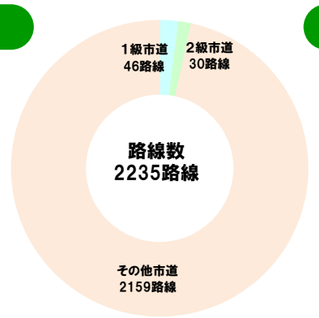
橿原市　舗装維持管理計画

舗装の損傷を調査し、利用者の安全・安心を踏まえた舗装修繕計画を策定しました。

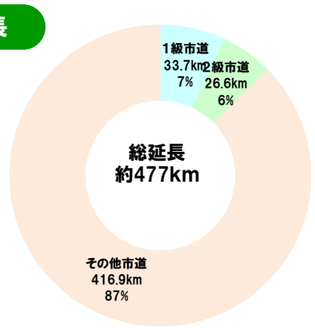
背景・目的

○道路は“人”・“物”を安全・安心及び円滑に移動させるという、平常時（日常生活）及び緊急時（災害発生時）ともに重要な役割を担っており、道路舗装の維持管理は住民の生活に大きな影響を及ぼします。
○橿原市が管理する市道は、２２３５路線、総延長約４７７㎞あり、多くの道路が整備後数十年を経過していることから、今後、道路舗装の老朽化がますます進行するとともに、財政負担の増加が懸念されています。
○管理する道路には、主要道路や住宅内道路等があり、道路状況の把握レベルもまちまちです。
○このような状況を踏まえ、橿原市では、客観的な結果を得ることを目的にして計測車両による路面性状調査を実施し、舗装の損傷度を把握するとともに、道路利用をしている市民の安全・安心と限られた財源の中で、道路を維持管理・修繕するための費用の最小化を踏まえた、舗装修繕計画を策定しています。

橿原市の路線数



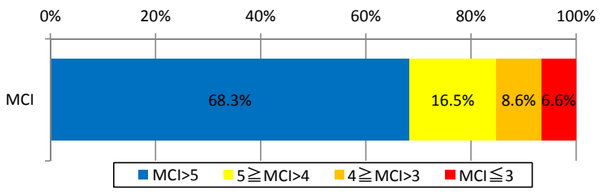
橿原市の道路延長



現状における舗装劣化の状況

○舗装の現状把握は、「道路ストック総点検実施要領（案）H25.2 国土交通省 道路局」に準拠して行いました。
○このうち、損傷の著しい区間（ＭＣＩ≦３の区間）が約６．６％（１８．６㎞程度）存在します。
○今回の調査から橿原市の舗装劣化は、ひび割れを主体として進行していることがわかりました。

橿原市のＭＣＩ状況

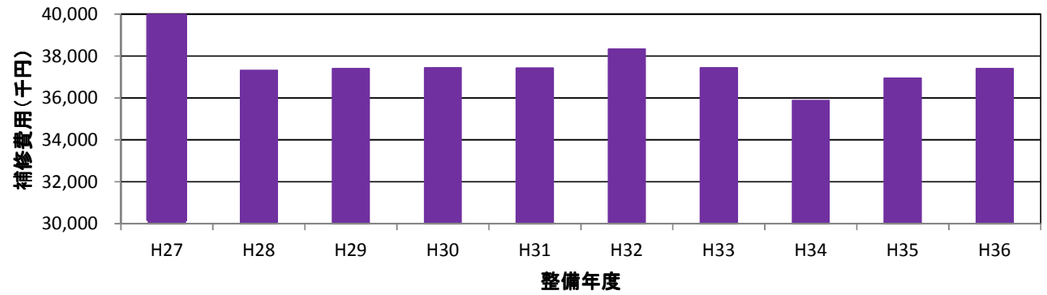


ＭＣＩの目安

MCI レベル	判定
MCI ≦ 3.0	早急に修繕が必要
3.0 ＜ MCI ≦ 4.0	修繕が必要
4.0 ＜ MCI ≦ 5.0	修繕の必要は無いが要経過観察
5.0 ＜ MCI	望ましい管理水準

舗装維持管理策定の効果

○舗装維持管理計画では、今後１０年間を目処に計画を策定しています。補修の必要性とともに、路線特性や機能性・安全性等を考慮して補修優先順位を定めています。
○今回の調査した主要道路だけでも、補修費は、各路線もしくは地域において今後１０年間で約４億円が必要になります。
○舗装維持管理計画にもとづき整備を進めることで、健全度の把握、日常的な維持管理が行えるとともに、道路のネットワークの安全性・信頼性が確保されます。
○また、社会資本総合整備計画の立案により、社会資本整備総合交付金制度を活用した事業費確保が可能となります。



舗装修繕計画の方針

■継続的なマネジメントサイクルの確立

橿原市管理の延長 477㎞の道路に対して、主要な道路について計画・修繕・調査・改善を定期に実施し、マネジメントサイクルを定着させます。

■効果的かつ効率的な舗装修繕の実現

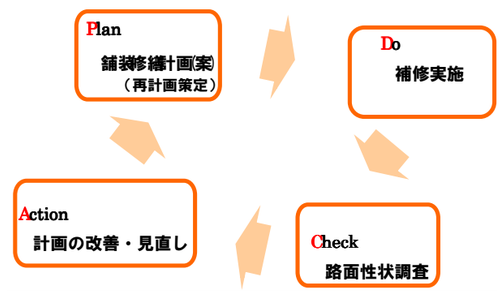
客観性の高い指標により、効果的かつ効率的な舗装修繕を実現します。

■継続的なモニタリングの実施

５年毎の定期点検（路面性状調査）を行うとともに、道路パトロールの実施により、損傷箇所を早期発見に努めます。

■計画の見直し

今回調査した路線を中心に継続的に調査を実施し、橿原市の舗装劣化進行度を把握して計画の見直しを実施します。



［計画の改善･見直し］
- 路面性状調査結果による優先順位の見直し
- 見込みより劣化が早い区間の修繕時期見直し
- 新技術導入等に伴う修繕コスト見直し
- 予算状況による計画見直し　　等